

# 町営住宅入居者募集

令和7年度 第4回町営住宅入居者募集について次のとおりお知らせします。

募集期間 2月9日(月)～2月27日(金)

募集団地

- ・第1内池団地(内池150番地)  
平成14年築(木造2階建)3DK
- ・第2内池団地(内池152番地)  
昭和63年築(PC造3階建)3DK
- ・西山団地(豊田205番地23)昭和60年築(PC造2階建)3DK

入居資格

- ①町内に居住しているまたは勤務地を有していること(3か月以上)
- ②持ち家(共有名義を含む)がなく、住宅に困窮していること
- ③税・公共料金等を滞納していないこと
- ④現に同居し、または同居しようとする親族がいること
- ※ただし、次の(1)～(6)のいずれかに該当する方は単身でも入居できます。

- (1)生活保護を受けている方
- (2)60歳以上の方
- (3)身体障がい者でその障がいの程度が1級から4級までの方

- (4)精神障がい者でその障がいの程度が1級から3級までの方
- (5)知的障がい者でその障がいの程度が精神障がいの程度に相当する方
- (6)DV被害者に該当する方
- (5)1か月あたりの収入が定められた基準以下であること
- (6)連帯保証人(2名)をたてられること
- (7)申込者および同居親族が反社会的勢力に属さないこと

月額家賃

入居者の収入および住宅の諸条件により決定します。

入居可能予定日

3月下旬

今後の募集予定

次回の町営住宅入居者募集について次のとおり実施する予定です。

第1回 5月11日(月)  
～5月29日(金)

※入居者の入退去、住宅の状況等により募集団地の変更等生じる場合があります。戸数・規格・家賃の詳細・最新の情報は、町のホームページをご覧ください。



町ホームページ

# 「日野町文化財保存活用地域計画」の事業が進んでいます！

日野町文化財保存活用地域計画の開始と推進協議会の設置

開催と推進協議会の設置

地域の歴史文化関連団体との協同事業の実施

日野町文化財保存活用地域計画推進イベント  
兼第9回日野文化フォーラム

「日野の”だから”再発見」

令和4～5年度に日野町内各地区公民館で開催した地域の隠れた文化財!! “だから”を掘り起こすワークショップの集大成として、令和7～8年度に各地区代表者によるフォーラムを開催します。

（とき） 2月14日(土)13時～16時15分  
【内容】 わたむきホール虹(ふれあいホール) ふるさとの昔ばなし朗読と童謡披露

（第1部） (13時10分～14時)  
（第2部） ふるさとの“だから”自慢(14時15分～15時)

第3部 パネルディスカッション「地域の“だから”再発見」(15時10分～16時)  
・託児所があります。託児を希望される方は、2月12日(水)までにお電話でお問い合わせください。  
・展示ギャラリーにて小学生のふるさと学習作品を展示します。

主 催 日野町教育委員会、日野文化懇談会

日野町文化財保存活用地域計画推進協議会 委員名簿	
井上 ひろ美(会長)	文化遺産プロモーション代表
外池 多津彦(副会長)	日野曳山保存会 会長
井上 典子	追手門学院大学 教授
高井 優浩	日野文化懇談会 事務局長
池内 明彦	日野観光協会 事務局長
森田 礼子	日野町商工会 会長
藤岡 康弘	西大路公民館 館長
北村 千保	西大路小学校 校長
栗田 千弦	陶芸家
西河 佳子	農家

◆問い合わせ先  
近江日野商人ふるさと館「日山中正吉邸」  
☎ 0748-52-0008

◆

問い合わせ先  
建設計画課 都市計画担当 ☎ 0748-52-6567

# 温故知新

## 日野歴史探訪

私たちの住む日野町には、52の大字があり、それぞれの地域が豊かな自然と歴史文化で彩られています。

温故知新では、町内各大字の歴史と代表的な文化財をシリーズで紹介していきます。

### 大字里口

大字里口は、必佐地区中央東端の出雲川左岸の低位段丘面に位置しており、北から東で大字上野田、南から西で大字内池と接しています。

字域の南端付近に御代参街道が東西方向に通り、その沿道に集落が形成されています。また、字域東辺の上野田との字界沿いを南北に伸びる道は、字域の北にある大字山本の字「扣山」の共同墓地に向かう道であることから、山本道・そうれん道などと呼ばれています。

中世の当地は、蒲生氏庶流の野口氏の本拠地とされ（『近江蒲生郡志』巻三）、応永2（1395）年の田地売券（照光寺文書）という史料に「野口」と記されているように、明治時代以前には野口村と称されていました。



町中の風景

近世は幕府領、旗本最上氏領で、近代に入り、明治7（1874）年10月7日に里口村と改称されました（『近江日野の歴史』第四巻近現代編）。

明治十一年度初頭の「滋賀県物産誌」に「地勢平坦車馬ノ往来便ニシテ物貨ノ運搬自由ナリ」とあることから、交通の便に恵まれた平坦な土地であり、農間余業として貨物の運搬に従事する人もいました。

字域の南端、集落のほぼ中央の字「宮裏」に八幡神社が鎮座しています。主祭神は、誉田別命で、創祀年代は不詳ですが、社伝によると蒲生雅俊が鎌倉の鶴岡八幡宮を勧請したものとされます（『滋賀県神社誌』）。



八幡神社宝篋印塔

その境内の南隅に、花崗岩製の石造宝篋印塔があります。相輪が欠失しているほかは各部が残つており、現在の高さは91センチメートルですが、元は総高が約150センチメートルの五尺塔として造立されたものであろうと考えられます。基礎に宝瓶二莖蓮と散蓮が刻み出さ

### 八幡神社の石造宝篋印塔

八幡神社の境内には、神社のシンボルとして親しまれている力ヤの巨樹があります。

力ヤは、樹高約30メートルで、胸高周囲地上1・3メートルで計測した幹周は約4メートルあり、日野町を代表する巨樹の一つであり、県下有数の大木でもあります（『近江日野の歴史』第一巻自然・古代編）。



八幡神社のカヤ

八幡神社の境内には、神社のシンボルとして親しまれている力ヤの巨樹があります。塔身には金剛界四仏の種子を配し、南北朝時代の貞治5（1366）年の年紀が刻まれています（『近江日野町の石造美術』）。

### 八幡神社の巨樹力ヤ

八幡神社の力ヤは、樹齢700年以上と推定される神木です。こうした古巨樹が現在に至るまで保持されている意味は大きく、地域の人々の信仰の対象として、神社や力ヤが大切に守られてきたことを表しています。